

第2学年 道徳学習指導案

日時 平成16年11月9日(火) 授業
学級 2年1組 男11名女13名 計24名
授業者 安倍 豊子

総合単元名 がんばるっていいな

総合単元のねらい

自分の願いや目標を実現させるために、粘り強く努力していこうとする心を育てる。

総合単元的な道徳学習の構想について

子どもたちは、学校生活の中で学習面・生活面の目標を立て取り組んできている。また、自分なりに、がんばることを決めて、日々努力している子もいる。しかし、自分で決めたいことを忘れてしまったり、がんばっていてもつらいことや難しいことに出会うとすぐ自分からあきらめてしまったり、返らせ、自分の願いや目標を達成するために、すぐにあきらめてしまったり、粘り強く努力することが大切であることに気付かせるとともに達成したときの喜びを体験させることにより、努力することのよさに気付かせたいと考え、総合単元として「がんばるっていいな」を設定した。本単元では、「出会う」の段階のオリエンテーション「めあてをふりかえろう」で自分が2学期のはじめに立てた目標について振り返らせ、本総合単元への方向付けをしたい。そして、あと1ヶ月半に迫った2学期のゴールに向けてどんなことをがんばったらよいか、自分のがんばらなければならぬことは何かを明確にしたい。また、自分のがんばりの様子を振り返らせながら、「出会う」の道徳の時間につなげ、自分がやらなければならないことにしっかりと自分の力で取り組んでいこうという気持ちをもたせたい。そこから、2学期のまじめなまじめな活動にはたくさんやらなければならぬことがあることに気付かせ、それらに取り組ませ、互いに助け合っていく活動を組み、互いのがんばりを認め合いながら、がんばることのよさを感じ取らせ、「深める」の授業へと結び付けていきたい。「深める」の授業では、努力し続けることが願いの実現や目標達成につながることに気付かせ、がんばることのよさをさらに深め、自分もそうなりたいという意欲をもたせたい。それをもとに、「生かす」では、「チャレンジ発表会」を計画し、お互いのがんばりを認め喜び合い、とさらに将来の自分への手紙を書くことによって、夢や目標に向かってこれからも努力していこうとする気持ちを高めていきたい。

子どもたちの「勤勉努力」にかかわったの実態について知るために、意識調査を行った。結果は、以下の通りである。

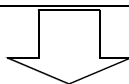
「勤勉努力」に関する意識調査 (調査人数 2年生 48名)

- あなたは自分なりにめあてをもっていますか。
ある 47人 ない 1人
- 「もっている」と答えた人は、それはどんなめあてですか。
・鉄棒で逆上がりができるようになりたい。
・勉強をがんばりたい。
・縄跳びで100回跳びたい。
- そのめあてに対して、どのようにがんばっていますか。
・いつも練習している。
・一生懸命ががんばる。
・ときどき練習。
- 自分でやらなければならないことにはどんなことがありますか。
・勉強・虫の世話・道具そろえ・係の仕事・宿題・学校へ行く・手伝い
- 自分で粘り強くやり遂げたということが何かありますか。
ある 38人 ない 9人
- 「ある」と答えた人は、それはどんなことですか。その時の気持ちも書いてください。
・夏休みの宿題。
・ピアノで難しい曲をがんばった。
・鉄棒の逆上がり
- とちゅうであきらめてしまったということは何かありますか。
ある 17人 ない 30人
- 「ある」と答えた人は、どうしてとちゅうでやめてしまったのでしょうか。
・テレビとかゲームにはまってしまった。
・バレエの先生がこわかったから。
・こるんでしまったから。
・あとでやろうと思ったから。
・やりたくなかったから。

意識調査から、一人一人がめあてをしっかりと生活していることがわかる。しかし、その取り組みの様子については、様々で毎日のように努力している子もいれば、ときどきという子もいる。粘り強くやり遂げた経験をもつ子が多かったが、その多くは一過性のもので長い時間をかけてやり遂げたものは少なかった。途中であきらめた経験では、やりたくない、めんどくさい、疲れるなど自分への甘えが感じられた。

総合単元の構想

段階	時期	意識の流れ	教科	特別活動	日常生活	家庭・地域
出 会 う	10月 4週	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを忘れてしまっていた。 ・達成できそうもないな。 ・今からでもがんばってみよう。 ・がんばってきたから最後までしっかりやろう。 ・自分が決めためあては、しっかりとやっいていこう。 ・自分の力で、やり抜くことは大切なことだ。 ・自分が決めためあてを達成できるようにがんばろう。 	オリエンテーション「2学期のまとめに向けて」 ・自分のめあてを振り返り、2学期のまとめに向けてがんばって いこうという気持ちをもたせる。			
	10月 5週		学級活動 「自分にチャレンジ」 ・2学期のゴールを目指して、がんばりたいことを明確にさせ、取り組ませる。	チャレンジ日記 ・自分の取り組みの様子について、毎日振り返らせる。	道徳の時間 主題名 じぶんの力で 1 - (1) 節度・節制、自立 資料名「ねこの目」(出典：学研) ねらい 自分にできることは他人の力を借りず、自分の力でやりぬこうとする心を育てる。	
深 め る	11月 2週	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分の力でがんばらなくては。 ・たいへんだなあ。 ・なかなかうまくいかない。 ・いやだなあ。 ・みんなもがんばっている。負けられないぞ。 ・進級できたぞ。この調子でがんばろう。 ・目標に向かって、ねばり強く努力することが大切なんだ。 	算数 「かけ算九九」 体育 「縄跳び運動」 ・進級合格カードを使い、意欲をもたせ、取り組ませる。	おすすめ読書 ・読書コーナーを設け、主人公のがんばる姿が描かれている本などを紹介し、意識を高める。	帰りの会 「スペシャルきらり、発見」 ・自分や友達のがんばりを見つけ、みんなで認め合い、がんばることのよさに気付かせる。(家庭からも知らせていただく。)	
			道徳の時間(本時) 主題名 粘り強くがんばる 1 - (2) 勤勉努力 資料名 ぼくは「のび太」でした (出典：東書) ねらい 願いや目標に向かい、一生懸命努力しようとする意欲を高める。			
生 か す	11月 4週	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばって取り組んでよかった。 ・やれば自分もできるんだ。 ・これからもがんばろう。 ・未来の自分へ、今がんばっている自分を教えてあげよう。 	国語(文集作り) 「未来の自分へ」 ・未来の自分を思い描き、こんなふうになればいいな、そのために今自分がどんなことをがんばっているか手紙を書かせ、今後の意欲付けをさせる。	学級活動 「チャレンジ発表会・収穫パーティーをしよう」 ・2学期を振り返り、自分たちががんばってきたことを喜び合い、さらにながらがんばっていかようという気持ちをもたせる。		



目標に向かって努力し続ける子ども

本時の指導

- 1 主題名 粘り強くがんばる 1 - (2) 勤勉努力
- 2 資料名 ぼくは「のび太」でした (出典 : 「みんなたのしく」東書)
- 3 ねらい
願いや目標に向かい、一生懸命努力しようとする意欲を高める。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

指導内容低学年の 1 - (2) は、「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。」である。これは、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させる児童を育てようとする内容項目である。

この時期の児童は、めあてをもつことができし、やる気をもつて取り組もうとする意欲も旺盛である。しかし、困難や障害に行き当たると、簡単にあきらめてしまったり、物事を進めようとする意欲も日常生活の中で、我慢を強いられてくるようになると、簡単にあきらめてしまったり、物事を進めようとする意欲も常に周りの援助の中で過保護に育っているためだと思われ、しかし、人が生きる上で目標を設定し、その実現に向けて進もうとするときは、多くは苦しみや困難が待ち受けているものであろう。それにくじけず、強い意志で乗り越えたいという気持ちで目標達成の喜びや達成感が味わえるものであるし、何事も自らの努力の時間として、「出会う」段階の「道徳の時間」でつかんだ「自分の力でやりぬこう。」という気持ちを持ち、自ら強い意志で進むことや自分の努力が自分の力になっていくことを学び取らせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

子どもたちを見てみると、目標を立てるもの、それに向かって進んで努力し続けている子は少ない。現に、子どもたちにも、学期の自分めあては何かと聞くと、「忘れた」と言って掲示してある自分のめあてカードを見に行く子が多い。「がんばろう」という思いをもってはいるが、「し続ける」ということは苦手である。また、いやなことやつらいことがあるとすぐにあきらめたり、続けていても飽きてしまったりしている傾向が多く見られる。子どもたちは、やった方がいいとか、できるよになりたいという気持ちをもっているものの、つらい思いはしたくない、あるいは、どうしてもやらなければならない状況を作ってもらえればやるという他力本願的なところもあるように感じる。

どんなことも続けることは大変つらいこと、誰もがくじけなくなる気持ちをもつものである。しかし、がんばり通し、あと満足感や喜びは何よりも素晴らしいことを子どもたちに気付かせ、最後まであきらめず、一生懸命努力しようとする気持ちを育てていきたい。

(3) 資料について

本資料は、漫画「ドラえもん」などの作者として知られる藤子・F・不二雄先生の伝記である。子どもの頃から漫画が好きで、こつこつと描き続けてきた藤子・F・不二雄先生。子ども時代には、手塚先生の漫画を1ヶ月かけて描き写したり、あこがれの手塚先生に会いに行ったりする。漫画を描くことの大変さを知るが、それでも粘り強くがんばり、自分の夢を実現する。先生は、子ども頃の自分を「ぼくは『のび太』でした」と振り返り、子どもの頃は、のび太のように不器用で漫画を描くことも遅かった「ぼく」でも、努力し続けてきたことで読む人を喜ばせたいという夢が叶ったと感じているという内容である。

「ドラえもん」は、子どもたちに人気の漫画である。それを描いた作者の子ども頃の様子や思いを考える中で、願いや目標を成し遂げるためには、誰もが大変であり、強い意志と努力の積み重ねがあって初めて実現されていくことに気付くことができる適切な資料であると考えられる。

5 「心に響く道徳の時間」における指導法の工夫(仮説・・・手立て2とのかかわり)

ねらいに迫るために、次のような手立てを考えた。

< 表現活動を取り入れた展開の工夫 >

- ・ 一生懸命漫画を描いている様子やできあがったときの「ふう、できたぞ。」という言葉を実際に言わせるなどの動作化をし、藤子先生のがんばった様子ややり遂げたうれしい気持ちに共感させたい。

< 板書の工夫 >

- ・ 「ドラえもん」の絵と主人公である藤子・F・不二雄先生。藤子先生の願いを中央に配して、藤子先生の夢と強い願いを中心に心情を視覚的にも強調させ、ねらいとする価値に迫りたい。

< 書く活動を取り入れた展開の工夫 >

- ・ 展開後段で、今までの生活や総合単元での活動を振り返らせ、努力することのよさを感じ取らせたい。

6 資料分析

場 面	登場人物の心の動き	子どもの意識	発問の意図 / 発問
<p>藤子・F・不二雄先生の紹介と漫画を描き続けてきた訳。</p> <p>漫画を描くことが好きだった子どもに、あこがれ、手塚先生の漫画を1ヶ月かけて書き写す。</p> <p>手塚治虫先生に会いに行く。手塚先生から、漫画を描くこと、驚く。</p> <p>漫画を描き続けたことを振り返り、よかったと思っている。</p>	<p>(藤子・F・不二雄)</p> <ul style="list-style-type: none"> 漫画を読む人を喜ばせたい。 読む人を楽しませたい。 一生懸命描き続けるぞ。 <p>漫画を描くことが大好き。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手塚先生にあこがれている。 手塚先生のような漫画家になりたい。 うまくなりたい。 読む人を楽しませる漫画を描けるようになりたい。 <p>あこがれの手塚先生に会える、うれしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1000ページ描いても300ページしか使わないとは、びっくりした。 漫画を描くことはたいへんなことなんだ。 手塚先生は、すごい。ぼくも見習いたい。 <p>子どもの頃のぼくは「のび太」でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 並外れて不器用。 漫画を描くのがおそい。 よくこれだけ描き続けられた。 これはたいへんなこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む人に喜んでもらいたいと思っていたんだ。 読む人のことを考えて描き続けてきたのはすごい。 <p>1ヶ月もかけてやり遂げたなんてすごいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漫画が上手になったるうな。 がんばったな。 手塚先生のようにになりたいという気持ちが強いのかな。 <p>あこがれの人に会えて、うれしいだろうな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1000ページが、300ページに減らされるのには、驚いた。 漫画を描くってたいへんなんだな。 夢に向かってがんばるかどうかわからないな。 藤子さんはそれでも描き続けたんだな。 <p>がんばり続けることは大切なことだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢を実現させることができてうれしいだろうな。 のび太もやればできるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 漫画を描き続けてきた藤子先生の思いや願いに気付かせる。 <p>藤子・F・不二雄先生は、どんなことを考えながら漫画をかいてきたのでしょうか。</p> <p>1ヶ月もかけて描き続けてこれたのはなぜかを考えさせ、やり遂げた気持ちに共感させる。</p> <p>手塚先生の漫画を1ヶ月もかけて書き写したとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>手塚先生から漫画を描くことのたいへんさを教わった主人公の驚きと新たにわき上がってきた意欲をとらえさせる。</p> <p>手塚先生から1000ページ描いても、本にするときには、300ページしか使わないことを聞いたとき、どう思ったでしょう。</p> <p>藤子先生が、漫画を描き続けてきた自分の努力やがんばりに満足し、続けることの大切さに教えていることに気付かせたい。</p> <p>「ぼくは、『のび太』でした。」という言葉に、どんな思いがこめられているのでしょうか。</p>

7 展 開

段階	学習の流れ	予想される児童の反応	支援の手だてと評価の観点
導入 5分	1 「ドラえもん」について知っていることを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケットからいろいろなものを出し、のび太を助けている。 ・のび太、しずか、ジャイアン、スネ夫が登場する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ドラえもん」の絵を提示し、興味をもたせ、それを描いた藤子・F・不二雄先生の紹介をし資料への関心を高めさせる。
展 開 前 段	2 資料「ぼくは「のび太」でした」を読み、話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ・題名についてふれ、「のび太」の人物像を思い描いて本資料に入りたい。 ・資料から、読む人のことを第一に考え、一生懸命描き続けてきた藤子先生の願いと強い意志をつかませる。 ・1ヶ月かけて描いている様子やできたときの言葉を動作化し、たいへんさとやり遂げたうれしい気持ちに共感させる。 ・漫画を描くことが好きだからこそ打ち込めたことであることに気付かせる。 ・700ページも没になることを想像させ、藤子先生の驚きに共感させたい。その後の藤子さんの気持ちをペア同士の話し合いから全体へと広げ、いろいろな思いを引き出させたい。 ・この後さらに意欲を燃やし、漫画を描き続けたことを知らせ、藤子先生の強い意志に気付かせたい。 ・膨大な量の漫画を描き続けてきた藤子先生の自己を振り返る言葉に込められた気持ちを考えさせ、がんばり続けることのよさに迫りたい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">藤子・F・不二雄先生は、どんなことを考えながら漫画を描いてきたのでしょうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・漫画を読む人を喜ばせたい。 ・楽しませたい。 ・一生懸命描き続けた。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">手塚先生の漫画を1ヶ月もかけて描き写したとき、どんな気持ちだったでしょう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・手塚先生みたいな漫画家になりたい。 ・たいへんだったな。 ・やりとおすことができて、うれしい。 ・うまくかけるようになったかな。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">1000ページかいても、本にするときには、300ページしか使わないことを聞いたとき、どう思ったのでしょうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・たいへんな仕事だ。 ・ぼくにはできないかも。 ・たいへんそうだけど漫画家になりたい。 ・自分の夢を叶えたい。 ・やればできる。 	
2.5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「ぼくは「のび太」でした。」という言葉に、どんな思いがこめられているのでしょうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・のび太のようにだめ人間だったけどよくがんばってきたな。 ・読む人たちのために、描き続けてこれてよかった。 ・のび太もやればできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(評)漫画を描くのが遅かったがくじけることなく描き続けてきた藤子先生の気持ちや行動をとらえることができたか。
展開後 10分	3 本時の価値に照らして、これまでの自分の生活を振り返る。		<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の考えや行動を振り返らせながら、今後の実践へと結び付けたい。 ・(評)本時の価値を今までの自分と照らし合わせて、自分を見つめることができたか。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">あきらめずがんばってよかったと思ったことはありませんか。また、これからもあきらめずがんばろうと思うことはありませんか。</div>		
終末 5分	4 目標をもち、がんばっている人の話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の中にも目標に向かってがんばっている人がいることを知り、今後の実践への意欲付けを図る。

8. 評 価

願いや目標に向かって、努力していこうとする気持ちが高まったか。

ぼくは、「のび太」でした。

一ヶ月かけてかきうつす

場面絵

ぼくは先生みたいになりたい。
たいへんだつたな。
やっとおすことができたぞ。
うまくかけるようになったかな。

場面絵

ぼくは、「のび太」でした。

よくがんばってきた。
かきつづけてきてよかった。
のび太もやればできる。

場面絵

ドラえもん絵


ねがい

- ・まんがかに なりたい。
- ・読む人を よろこばせたい。
- ・楽しませたい。

三百ページしかつかわない

びつくり
たいへんなしごと
ぼくにできるかな。
まんがかになりたい。
がんばろう。

10 道徳ノート



学しゅうのふりかえり
お友だちの考えをよく聞きましたか。

うなずきながら聞いた。		
まあまあ		
もつすこし		

道徳ノート

名前

「ぼくは「のび太」でした」

あきらめずに、がんばってよかったと思つたことはありませ
んか。また、これからはあきらめずにがんばろうと思つことは
ありませんか。